

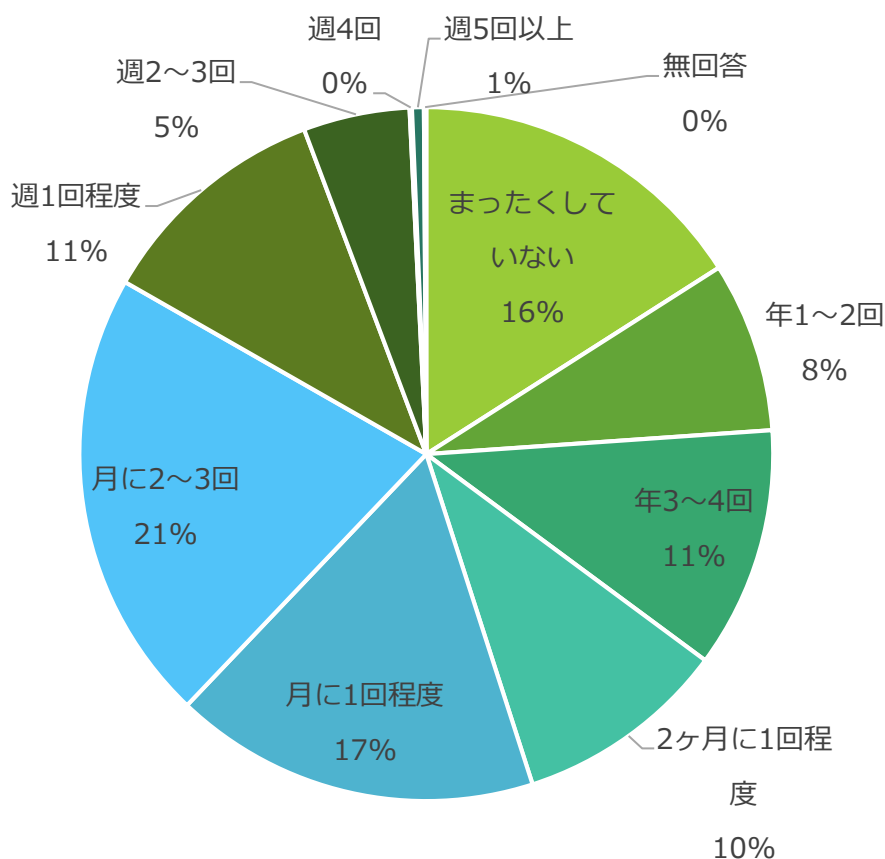
4. 恋愛・性の健康

■ 性生活

有効回答者 908 人のうち、特定の付き合っている人・配偶者や恋人がいると回答した人は、387 人（全体の 42.6%）でした。このうち、法的に結婚している人は 49 人（12.7%）でした。また、これまで同性とセックスしたことがある人は 851 人（93.7%）であり、その割合を性別で見ると、男性では 95.8%、女性では 22.7%でした。

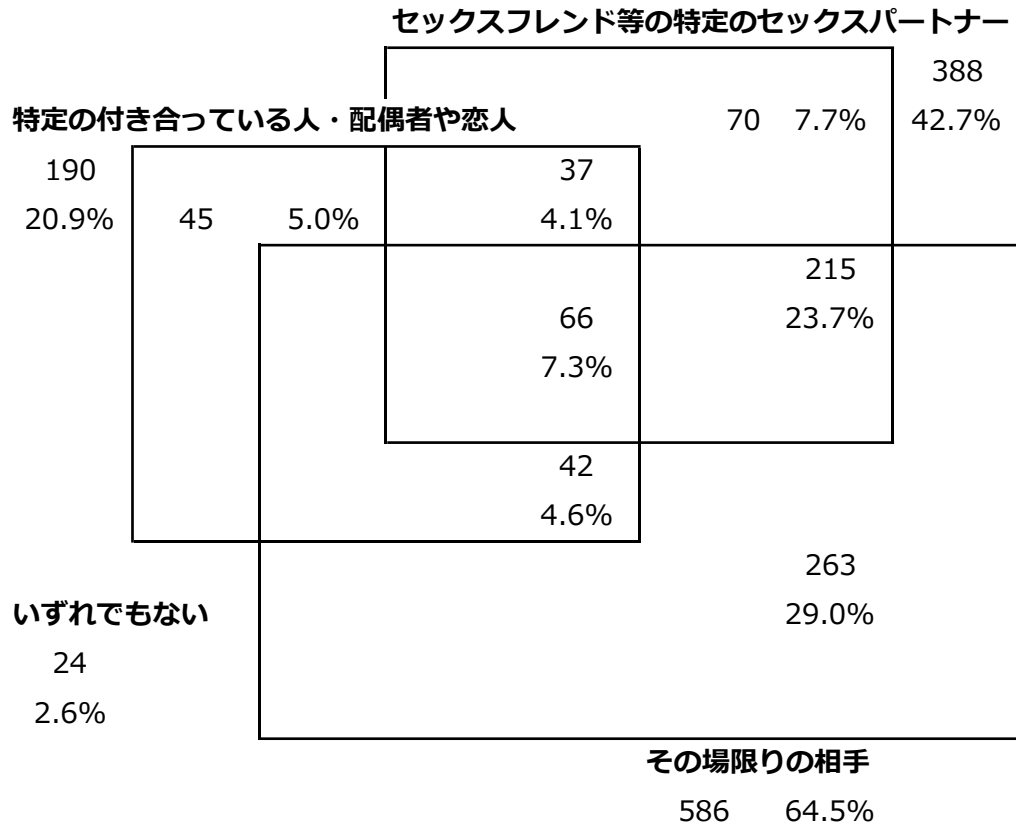
この1年間のセックスの頻度は、「月に2~3回」の192人（21.1%）ともっとも多く、次いで多いのが「月に1回程度」が155人（17.1%）でした。この1年間にセックスしたことがない人は146人（16.1%）でした。現在、「特定の付き合っている人・配偶者や恋人」がいるけれど、この1年間にその人とのセックスはしていない人は197人（21.7%）でした。

図 4-1 この1年間のセックスの頻度 (n=908)



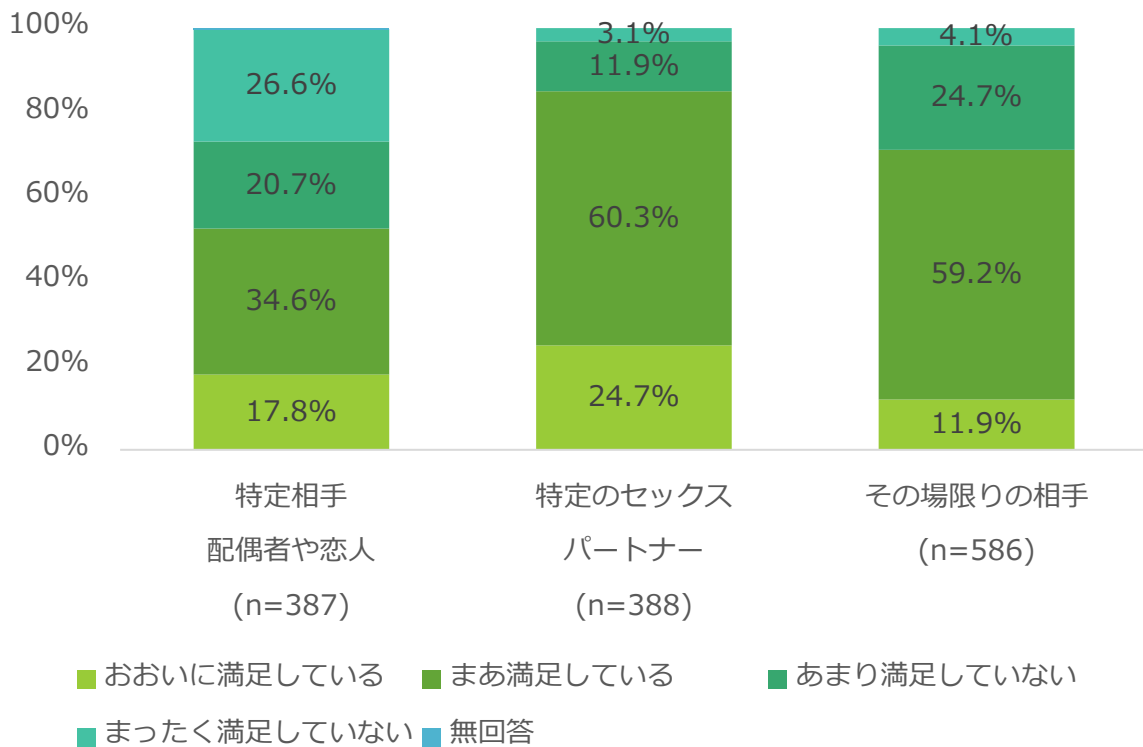
この1年間にセックスしたことがあると回答した762人のうち、セックスの相手との関係性は「特定の付き合っている人・配偶者や恋人」が190人（24.9%）、「セックスフレンド等の特定のセックスパートナー」が388人（50.9%）、「その場限りの相手」が586人（76.9%）でした。これらの重なりを分析したものを図4-2に示します。金銭の授受を伴うセックスは68人（8.9%）であり、相手に払った人が55人、受け取った人が15人でした。

図 4-2 この1年間のセックスの相手 (n=908)



今の性生活について、セックスの相手別にうかがったところ、「おおいに／まあ満足している」人の割合は「特定の付き合っている人・配偶者や恋人」では 203 人 (52.4%)、「セックスフレンド等の特定のセックスパートナー」では 330 人 (85.0%)、「その場限りの相手」では 417 人 (71.1%) でした (図 4-3)。なお、「配偶者・恋人・特定のパートナー」の場合には、この1年間にセックスをしていない人も含まれています。

図 4-3 この1年間の性生活満足度（相手別）



■ 恋愛に関する経験

これまでに「付き合いそうになった相手や、結婚したいと思っていた相手に、あなた自身が HIV 陽性であることを伝えたら、うまくいかなかったことがある」と回答した人は 205 人 (22.6%)、「特定の付き合いしている人・配偶者に、あなた自身が HIV 陽性であることを伝えたら、別れることになったことがある」と回答した人は 141 人 (15.5%) でした。第 2 回の調査結果とほぼ同様の割合であり、ここ数年の状況に変化はあまりないように思われます。

■ 特定の付き合いしている人・配偶者や恋人との関係

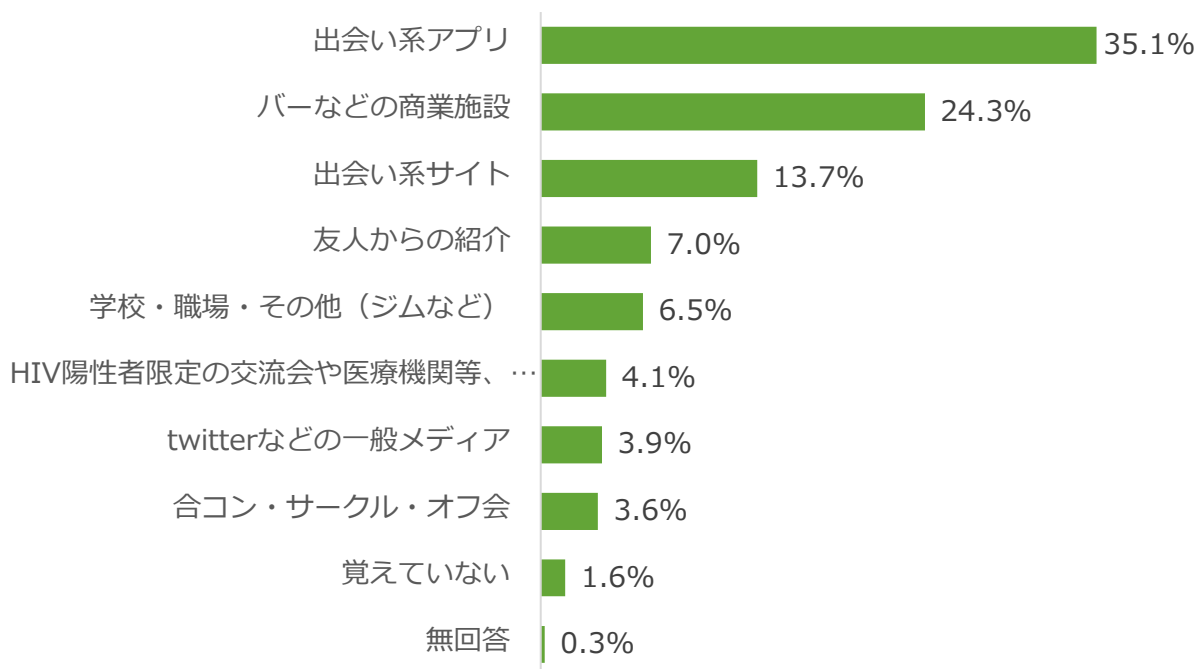
特定の付き合いしている人・配偶者や恋人がいる人は 387 人 (全体の 42.6%) でした。相手の人数は 1 人が 338 人 (87.3%) であり、47 人 (12.1%) は相手が 2~10 人と複数でした。

主な相手の性別が男性であったのは 353 人 (現在、特定の付き合いしている人・配偶者や恋人がいる 387 人中 91.2%、以下、原則として同様に 387 人中の%) でした。相手の HIV ステータスは陽性 81 人 (20.9%)、陰性 238 人 (61.5%)、わからない 68 人 (17.6%)。付き合いしている期間の平均は 7.6 年、付き合い始めて 1 年以内が 79 人 (20.4%)、10 年以上は 123 人 (31.8%) でした。この相手との関係を「今後もずっと続けていきたい」「どちらかというとも後も続けていきたい」が、あわせると 185 人 (47.8%) で、第 2 回目の調査結果と比べて、低い割合でした。このうち、この 1 年間に相手とセックスしたことがあるのは 190 人 (49.1%) でした。

■主な相手と知り合った場所

最も多かったのは出会い系アプリで 136 人 (35.1%)、次に多かったのはバーなどの商業施設 94 人 (24.3%) でした。HIV 陽性者限定の交流会や医療機関等の場所、HIV 陽性者限定ではないけれど HIV に関する勉強会やイベント等で知り合ったという人は 16 人 (4.1%) でした。

図 4-4 特定の付き合っている人・配偶者や恋人の主な相手と知り合った場所(n=387)

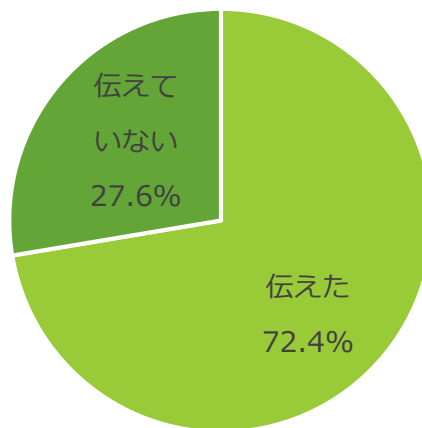


主な相手に HIV 陽性ということを伝えていたのは 280 人 (72.4%) でした。伝えてみて「とても良かった」「どちらかといえば良かった」という人は 259 人 (伝えた人のうち、92.5%) でした。

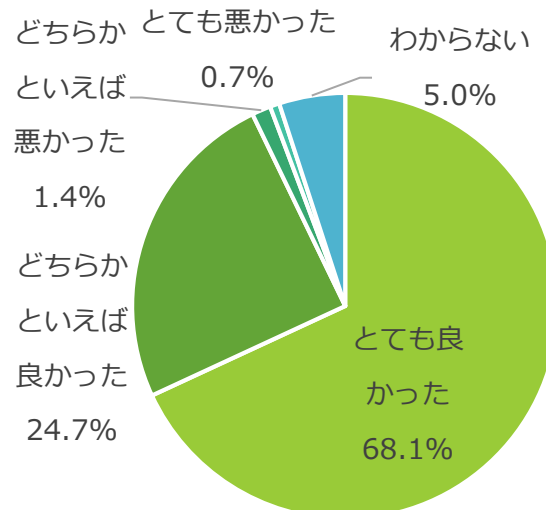
このうち、付き合い始める前に HIV 陽性であることを伝えた人は 27.4%で、付き合い始めた後に伝えた人は 8.4%、付き合いしているうちに HIV 陽性であることを知り、付き合い始めた後に伝えた人が 64.2%でした。相手と付き合いしている期間が長い人の方が、伝えている割合は高かったです。

図 4-5 特定の付き合いしている人・配偶者や恋人の主な相手に陽性であることを伝えた割合と
その後の思い

伝えた割合(n=387)



伝えた人のその後の思い(n=280)



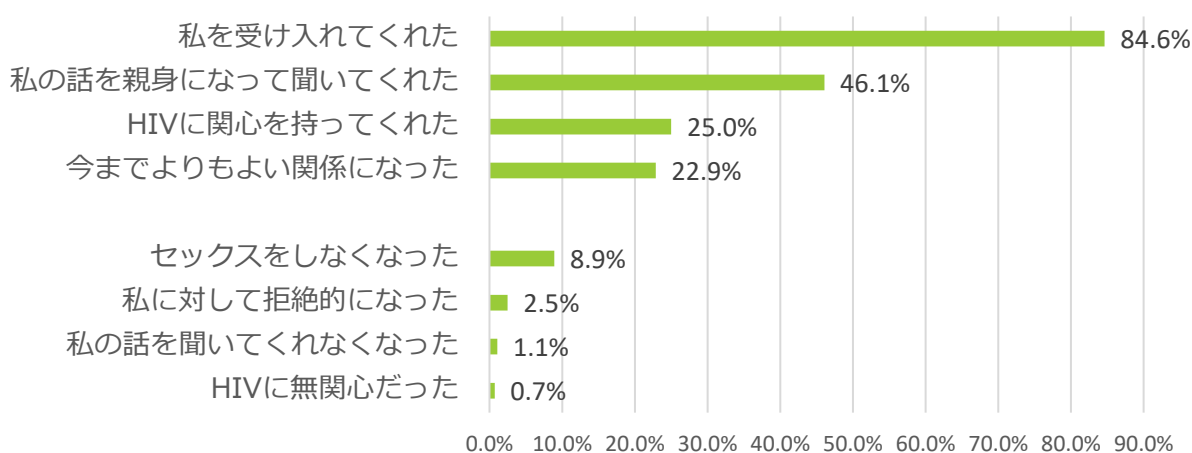
その相手に**伝えた理由**としてもっとも多かったのは「大切なことなので相手に伝える必要があったから」で 78.2%、次に多かったのが「今後、相手に HIV 感染させてしまう可能性があるから」 35.0%、「相手に HIV 検査を受けてもらいたかったから」 21.8%でした。

相手に伝えるときに**工夫した点**でもっとも多かったのは「HIV 陽性と伝える適切なタイミング

を待った」で 27.9%、次に「相手の人柄や HIV に関する知識・イメージがどんなものか様子を見て、大丈夫そうだと思って伝えた」17.5%、「伝えたい内容や言葉を事前に整理したり、シミュレーションしたりした」12.5%、「HIV の薬を飲んでいるところや通院するところを隠さなかった」10.4%でした。「特に工夫はしなかった」人も 34.3%いました。

その相手に、HIV 陽性ということ伝えたときの**相手の反応**では、「受け入れてくれた」や「親身になって話を聞いてくれた」など肯定的な反応が多かったですが、「拒絶的になった」など否定的な反応もありました。

図 4-6 特定の付き合いしている人・配偶者や恋人の主な相手に HIV 陽性ということ伝えたときの反応(n=280)



■特定のセックスパートナーとのセックス

特定のセックスパートナーとのセックスがこの1年間にあった人は 388 人（全体の 42.7%）でした。相手の人数は 1 人が 84 人（21.6%）であり、平均で 6.7 人でした。セックスの回数は 1~500 回で、平均値 19.3 回、中央値 10 回。年間で 50 回以上の方は 44 人でした（特定のセックスパートナーとのセックスがこの1年間にあった 388 人中 11.3%、以下、原則として同様に 388 人中の%）。

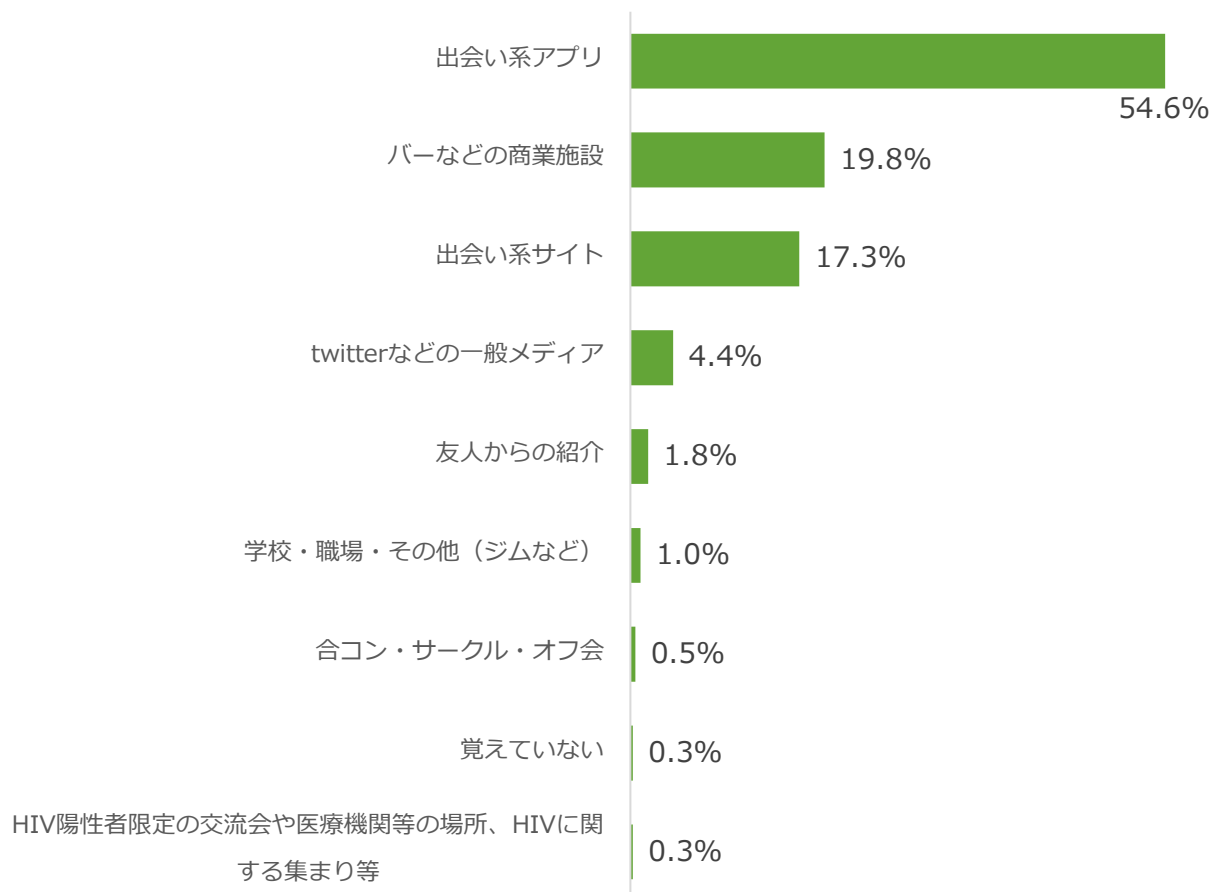
相手の HIV ステータスは「ほぼ全員は HIV 陽性」「一部は HIV 陽性」であった人は 93 人（24.0%）、「相手が HIV 陽性が陰性がまったくわからない」という人は 238 人（61.3%）でした。

主な相手の性別が男性であったのは 386 人（99.5%）でした。相手の HIV ステータスは陽性 50 人（12.9%）、陰性 66 人（17.0%）、わからない 272 人（70.1%）。関係を持っている期間の平均は 2.6 年、関係を持ち始めて 1 年以内が 193 人（49.7%）、10 年以上は 20 人（5.2%）でした。

主な相手と知り合った場所として、最も多かったのは出会い系アプリで 212 人（54.6%）、次

に多かったのはバーなどの商業施設 77 人 (19.8%)、出会い系サイト 67 人 (17.3%) でした。

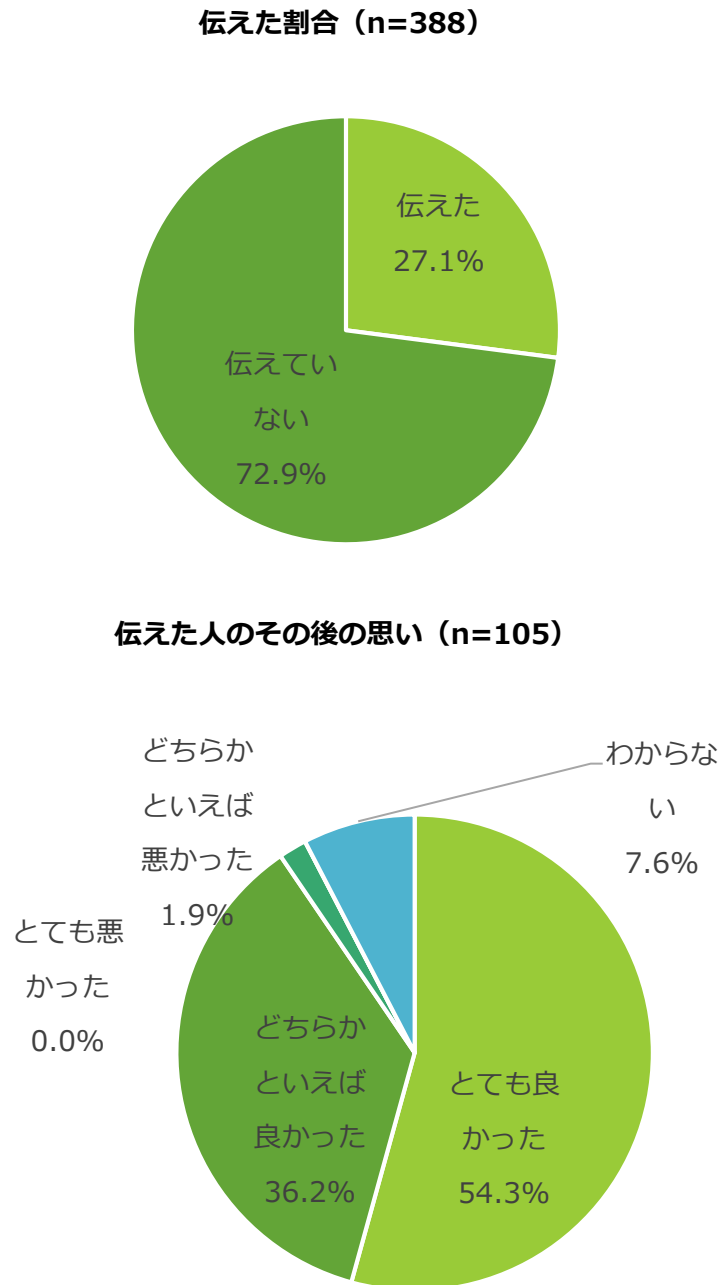
図 4-7 特定のセックスパートナーの相手と知り合った場所(n=388)



主な相手に HIV 陽性ということ伝えていたのは 105 人 (27.1%) でした。伝えてみて「とても良かった」「どちらかといえば良かった」という人は 95 人 (伝えた人のうち、90.5%) でした。

このうち、関係を持ち始める前に HIV 陽性であることを伝えた人は 21.5%で、付き合った後に伝えた人は 21.5%、付き合っているうちに HIV 陽性であることを知り、付き合った後に伝えた人が 57.0%でした。相手と付き合っている期間が長い人の方が、伝えている割合は高かったです。

図 4-8 特定のセックスパートナーの相手に陽性であることを伝えた割合とその後の思い



その相手に**伝えた理由**としてもっとも多かったのは「大切なことなので相手に伝える必要があ

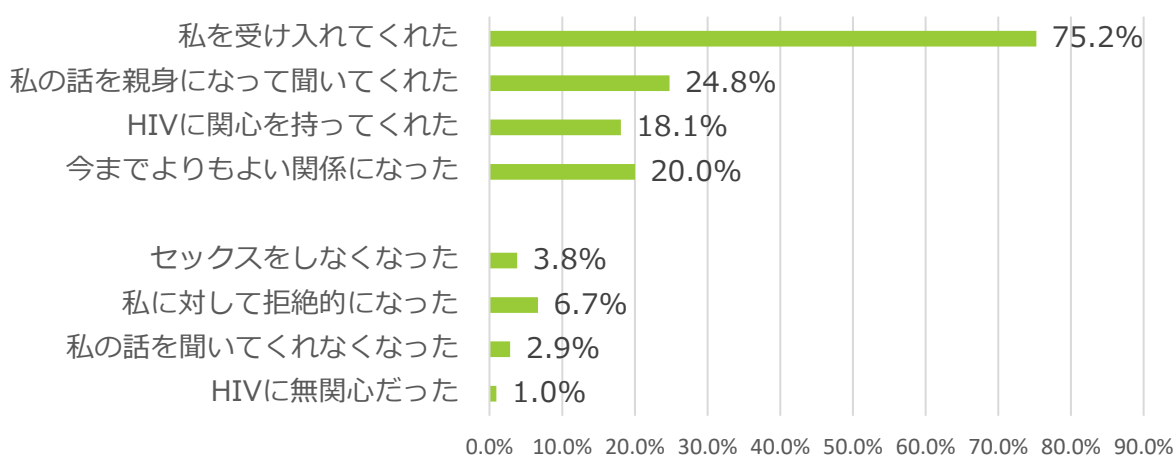
ると思ったから」で 55.2%、次に多かったのが「今後、相手に HIV 感染させてしまう可能性があるから」26.7%、「相手が HIV 陽性者なので、同じ HIV 陽性者同士で理解しあえると思ったから」24.8%、「治療を受けウイルス量が低いため、相手に HIV 感染させるリスクはないと思うから」17.1%でした。

相手に伝えるときに**工夫した点**でもっとも多かったのは「HIV 陽性と伝える適切なタイミングを待った」で 18.1%、次に「相手の人柄や HIV に関する知識・イメージがどんなものか様子を見て、大丈夫そうだと思って伝えた」16.2%、「HIV やエイズについての話題をさりげなく試みて反応を見た」9.5%、「HIV の薬を飲んでいるところや通院するところを隠さなかった」9.5%でした。「特に工夫はしなかった」人も 45.7%いました。

その相手に、HIV 陽性ということ伝えたときの**相手の反応**では、「受け入れてくれた」や「親身になって話を聞いてくれた」など肯定的な反応が多かったですが、「拒絶的になった」など否定的な反応もありました。

図 4-9 HIV 陽性ということ特定のセックスパートナーに伝えたときの相手の反応

(n=105)



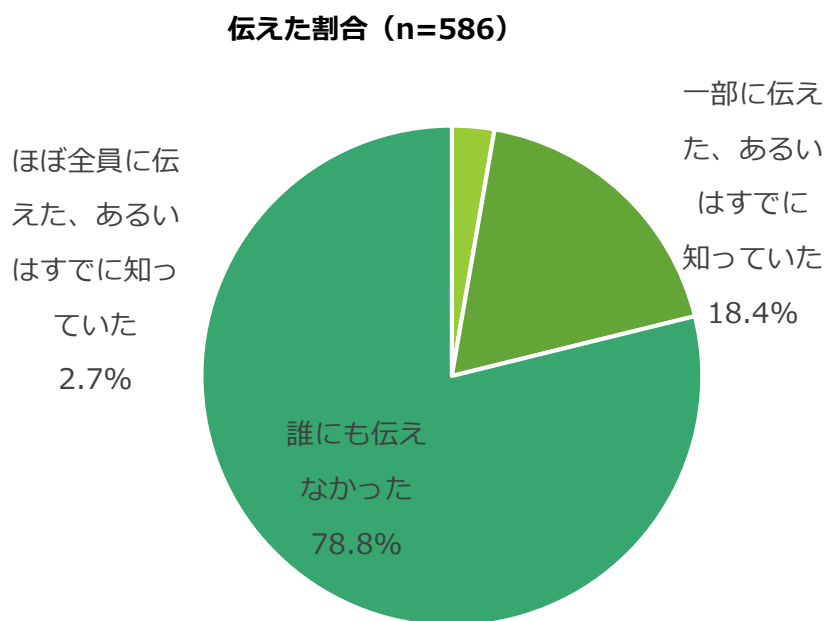
■ その場限りの相手とのセックス

その場限りの相手とのセックスがこの1年間にあった人は 586 人（全体の 64.5%、この1年間にセックスしたことがある人のうち 76.9%）でした。第2回調査では 75.4%、第2回調査では 85.0%と報告されているため、前回よりはやや低い割合となりました。この1年間のセックスの回数は 1~560 回で、平均値 25.2 回、中央値 10 回。年間で 50 回を超える人は 94 人でした（その場限りの相手とのセックスがこの1年間にあった 586 人中 16.0%、以下、原則として同様に 586 人中の%）。

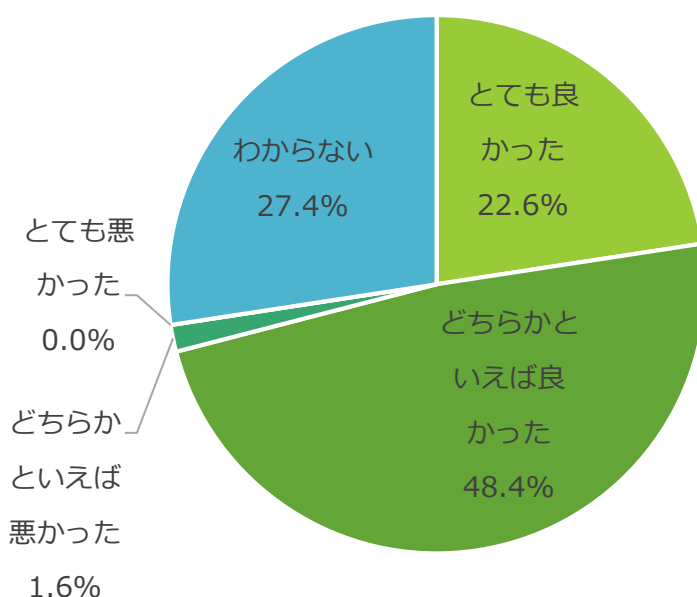
相手の HIV ステータスは「ほぼ全員は HIV 陽性」「一部は HIV 陽性」であった人は 105 人（17.9%）、「相手が HIV 陽性か陰性かまったくわからない」という人は 462 人（78.8%）でした。

相手に陽性であることを「ほぼ全員に」「一部に」伝えた人、あるいは「すでに知っていた」人は124人(21.1%)。伝えてみて「とても良かった」「どちらかといえば良かった」という人は88人(伝えた人のうち、70.9%)でした。

図 4-10 その場限りの相手に陽性であることを伝えた割合とその後の思い



伝えた人のその後の思い (n=124)



その場限りの相手に HIV 陽性ということを伝えた理由としてもっとも多かったのは「相手が HIV 陽性者なので、同じ HIV 陽性者同士で理解しあえると思ったから」で 44.4%（以下同様に、伝えた 124 人中の%）、次いで多いのが「大切なことなので相手に伝える必要があると思ったから」33.1%、「HIV 陽性であることがわかれば、相手と良い関係が築けると思うから」20.2%、「治療を受けウイルス量が低いため、相手に HIV 感染させるリスクはないと思うから」18.5%、「HIV 陽性者に対する差別や偏見があまりない相手だと思ったから」16.1%でした。

伝えたときの相手の反応では「受け入れてくれた」と回答する人が最も多く 57.3%でした。

■コンドーム使用率とコンドームなしの射精経験

この 1 年間にアナルや膣に挿入したり挿入されたことがある人は、特定の付き合っている人・配偶者や恋人で 123 人（64.7%）、セックスフレンド等の特定のセックスパートナーで 340 人（87.6%）、その場限りの相手で 520 人（88.7%）でした。

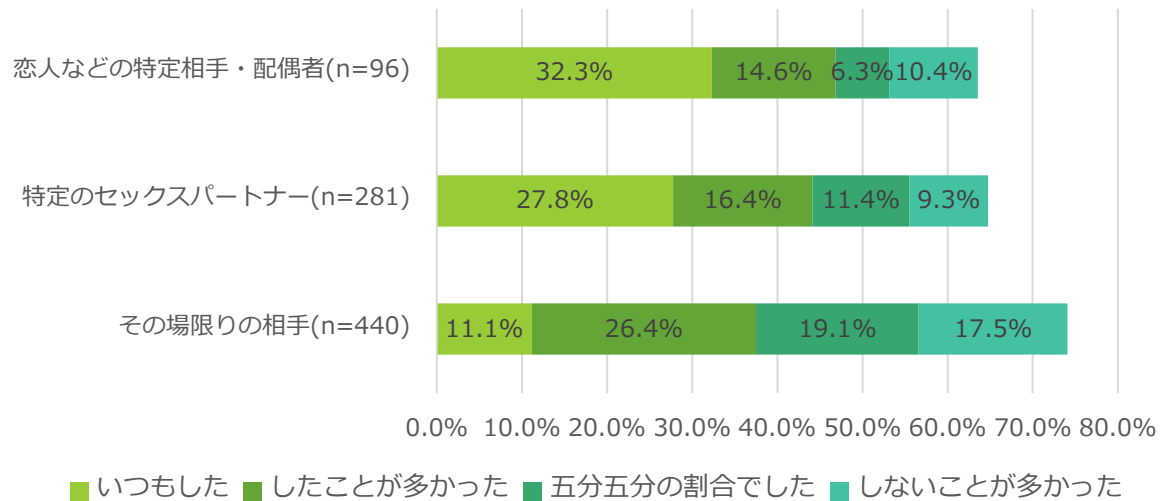
このうちアナルや膣に挿入したり挿入されたときのコンドーム使用率は、必ず使った（常用）に限ると、特定の付き合っている人・配偶者や恋人で 27.6%、セックスフレンド等の特定のセックスパートナーで 25.3%、その場限りの相手で 16.0%でした。第 1 回目の調査結果と比べて、使用率は低下していました。

一方で、アナルや膣を使ったセックスで、コンドームなしで射精した経験は、とても高い割合で、多くの人が経験していました。図 4-11 では、挿入される側と挿入する側にわけて、相手別のコンドームなしで射精した経験を集計し、図示しました。この 1 年間に、自分が挿入される側で

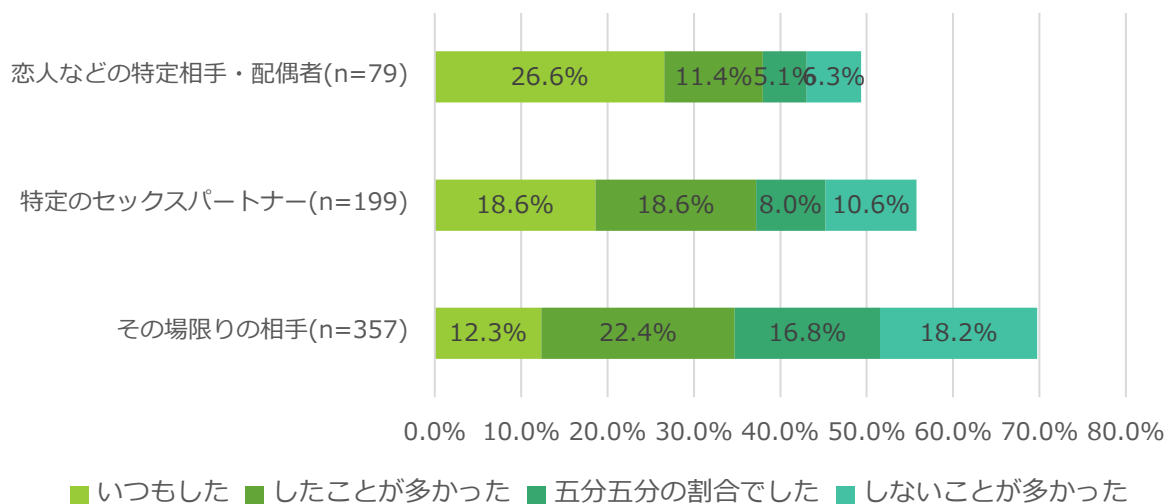
は 63.5%~74.1%、自分が挿入する側では 49.4%~69.7%の、コンドームなしの射精経験がありました。

図 4-11 アナルや膣を使ったセックスでコンドームなしで射精した経験
(いつもした~しないことが多かったの各割合,全くなかったを除いて%表記)

・ **自分が挿入される側 (各々、挿入される側をしたことがない人を除いて集計)**



・ **自分が挿入する側 (各々、挿入する側をしたことがない人を除いて集計)**



■セックスに関連した諸経験：性感染症

これまでに罹患したことがある性感染症では、梅毒 302 人（全体の 33.3%）、毛じらみ 265 人（全体の 29.2%）、B 型肝炎 150 人（全体の 16.5%）、尖圭コンジローマ 146 人（全体の 16.1%）でした。いずれも罹患したことのない人は 378 人（全体の 41.6%）で、平均して 1.5 種類の性感染症の既往歴があり、23.7%の人は 3 種類以上の既往がありました。

図 4-12 これまでに性感染症にかかった経験

